

女性防災推進委員会 内部研修
「防災に於けるダイバーシティを考える」
実施報告書

作成日：2023 年 5 月 4 日

作成者：女性防災推進委員会

東代表 平山 優子

西代表 渋谷 香奈

1. 概要

当委員会において内部研修「防災に於けるダイバーシティを考える」を 2023 年 4 月 20 日(木)オンライン形式で実施した。本研修は、2022 年 5 月 8 日～6 月 16 日に実施した支部長アンケートおよび女性防災士アンケートの結果から浮き出た課題「多様性への共通した認知と認識を持つことの必要性」、および当委員会の実情や今までの活動内容から、防災分野におけるダイバーシティとはどういう考えなのか全委員が共通認識を持ち、今後同じ方向性に向かっていくことを目的に開催した。また、オンデマンドによる動画視聴も実施し、受講率増加に取り組んだ。受講した運営委員・委員数は 19 名/24 名中、受講率 79.2%であった。

この報告書は、研修内容とアンケート回答の集計から、今後の当委員会活動の拡充と活性化の一助となるようご活用いただければ幸いである。

2. タイトル

「防災に於けるダイバーシティを考える」

3. 日時

2023 年 4 月 20 日(木)19:30~21:10

4. 形式

女性防災推進委員会の Zoom によるオンライン方式、およびオンデマンド動画視聴配信（委員限定、期間限定）

5. タイムスケジュール

時間	所要時間	内容	担当	備考
19:15~	15分	Zoom 立ち上げ		
19:30~	5分	講師入室 開会	講師:砂田 司会:永倉	・画面動作確認 ・注意事項 ・挨拶 ・講師紹介
19:35~	60分	研修 「座学」	講師:砂田	
20:35~	25分	研修 「ディスカッション」		
21:00~	5分	研修 「まとめ」		
21:05~	5分	事後案内・閉会	司会:永倉	・動画視聴 ・任期終了者 アンケート ・写真撮影

6. 講師

砂田紀子

日本防災士会理事および当委員会運営委員

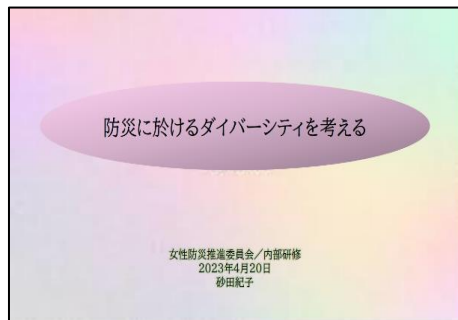
～講師紹介～

東日本大震災を機に、それまでの女性に関わる活動の延長で、地域防災計画について調査し、女性や社会的に弱い立場の人々全ての尊厳が保たれる防災計画の実現を目指し、自治体に提言を行う。それ以降ネットワークを創りながら、配慮を必要とする人々の防災を中心に地域防災活動に取り組む。防災士・危機管理士・セーフティリーダー他多くの資格を取得。

7. 研修内容

- ・防災に於けるダイバーシティとは？
- ・現状どの様な課題があるのか？
- ・ダイバーシティを取り入れることで、改善されること期待できること。
- ・実際の地域防災に落とし込むにはどうすれば良いのか。
- ・参加者との意見交換。

8. 投影資料



9. その他 事後アンケートを実施 (Google フォーム作成)

10. 研修結果

10-1. 受講者数について

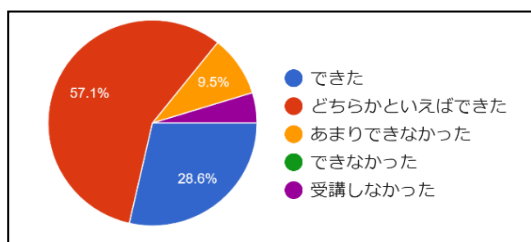
- 1) 運営委員・委員 19 名/24 名中
受講率：79.2%
- 2) 内訳
 - ・当日受講：10 名
 - ・当日欠席動画視聴受講：9 名
 - ・未受講者：5 名

10-2. 事後アンケートについて

- 1) 期間 4 月 20 日(木)～26 日(水)21:00
- 2) 回答者数 21 名/24 名中
回収率 87.5%
- 3) 集計結果

Q1. ダイバーシティを意識した防災推進 の重要性が理解できましたか。

【回答数 21 名】



選択肢	回答数	割合
できた	6 名	28.6%
どちらかといえばできた	12 名	57.1%
あまりできなかった	2 名	9.5%
できなかった	0 名	0%
受講しなかった	1 名	4.8%

Q2. 動画視聴をしましたか。

【回答数 21 名】

選択肢	回答数	割合
した	16 名	76.2%
しなかった	5 名	23.8%

- ・動画配信期間 (YouTube)
4 月 21 日(金)～25 日(火)21:00
- ・視聴者数 16 名/24 名中、視聴率 66.7%
内訳：当日出席者 7 名/10 名中 (70.0%)
当日欠席者 9 名/14 名中 (64.3%)
- ・再生回数 (YouTube) 34 回/16 名中

Q3. 内部研修の感想

【回答数 18 名】

11. 考察

11-1. 受講率について

研修に関しては、委員全員が受講できる方法として、Zoom 及びオンデマンド配信の両方で開催。結果、受講率は増加した。一方、未受講の委員に対して連絡をするも半数以上が返事がこない状況であった。今期の活動を振り返ると「みんなで決めたルールはみんなで守る」「報連相」という組織として基本的なことが、少数ではあるが守られていなかった。代表委員として、その方々にその時声を掛けるだけではなく、普段から何気ない話もできる繋がりができていれば、もっとちがっていたのではないかと考える結果となった。

11-2. オンデマンド動画視聴について

当日のみの Zoon 開催だと受講者が 10 名/24 名中、受講率 41.7%であったが、オンデマンド配信も開催したことから受講者数の増加を達成できた (19 名/24 名中、受講率 79.2%)。開催形式の多様化は受講者数増加に有効な方法であったといえる。また、当日参加できた人とできなかった人

との動画視聴の利用割合を比較すると、当日参加できた人の割合(70.0%)はできなかった人の割合(64.3%)を上回っていることより、両者にとって有効な環境であったことが見えた。加えて、動画再生回数は動画視聴人数の2倍以上であった。平均すると一人が複数回視聴していることになり、当委員の本研修への意識が高いことも数字に表れた。一方、連絡がとれない委員への受講促進には至らなかった。

11-3. 研修内容への受講者理解について

『アンケート Q1 ダイバーシティを意識した防災推進の重要性が理解できましたか』という問いに対して「できた」「どちらかといえばできた」と回答した人は18名、全体の85.7%がダイバーシティを意識した防災推進の重要性が理解できたと回答した。一方、それ以外の回答「できなかった」は0名、「あまりできなかった」は2名であった。「あまりできなかった」と回答した2名について、『アンケート Q3』に記載された研修の感想を見ると、「表現することが難しい」「全てをカバーすることはやはり難しい（中略）」という記入があった。このことより、理解はしているもその対応への迷いや、自身が取り組む優先順位を持っているという理由から選択した回答だったことを推測する。

11-4. 研修目的の達成について

『アンケート Q3 研修の感想』より、本研修は一人ひとりがあらためて「防災分野に於けるダイバーシティとはどういうことなのか」を考える貴重な時間になったといえる。一方、この時間内で委員内の共通認識ができたとはいえない。引き続き当委員会の課題として考え進めていくことで、目指すべき方向性を見出せるのではないかと考える。

以上